

よくあるご質問と回答:

Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage Arcserve Cloud Storage

1 全般

Q1. Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage (クラウド CRS) とは何ですか？

Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage (以下、クラウド CRS と略記) は、Arcserve の提供するクラウド ベースのイミュータブル (不変) ストレージです。お客様の大切なバックアップ データを格納し、ランサムウェア等のサイバー攻撃から守ります。定期的 to 取得されるイミュータブル スナップショットにより、バックアップ データを攻撃前の健全な時点に巻き戻すことが可能です。

[Top へ戻る](#)

Q2. クラウド CRS と Arcserve Cyber Resilient Storage (CRS) の違いは何ですか？

クラウド CRS ではインターネット経由でクラウド上のストレージにバックアップ データを送ります。ストレージのハードウェアを用意する必要がないため、導入しやすいのがメリットです。

Arcserve Cyber Resilient Storage (以下 CRS と略記) は、お客様が用意するサーバハードウェアに CRS ソフトウェアをインストールして利用します。社内ネットワーク回線を利用したバックアップ/リストアが可能です。

[Top へ戻る](#)

Q3. Arcserve Cloud Storage (ACS) とは何ですか？

Arcserve Cloud Storage (以下 ACS と略記) はクラウド CRS からイミュータブル スナップショット機能を省いたクラウド ストレージです。利用中の復旧ポイントサーバの容量を拡張したい場面などで利用してください。

[Top へ戻る](#)

Q4. クラウド CRS や ACS はどのバックアップ ソフトと組み合わせて利用できますか？

クラウド CRS および ACS は Arcserve UDP に特化したクラウド ストレージです。Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ (以下 RPS と略記) のデータストア デスティネーションとして利用することができます。

なお、Arcserve UDP 以外のバックアップ ソフトウェアと組み合わせて利用することはできません。

[Top へ戻る](#)



Q5. クラウド CRS はどのような仕組みでランサムウェア攻撃からバックアップデータを守りますか？

現在主流の侵入型ランサムウェア攻撃では社内ネットワークに侵入した上でバックアップデータを破壊します。そのため、Arcserve UDP 利用環境でまず警戒すべきは RPS への攻撃です。

RPS とクラウド CRS はデータが分離されており、またクラウド CRS はファイル共有ではないプロトコルで RPS と連携しているので、仮に RPS に侵入されたとしてもクラウド CRS 上のデータを破壊することはできません。

さらに社内ネットワークを迂回して、クラウド CRS に侵入されたとしても、（コンプライアンス モードが有効であれば）管理者でも削除できない不変スナップショットが保持されているので、そこから攻撃前の状態にデータを戻すことができます。

[Top へ戻る](#)**Q6. クラウド CRS / ACS を使用するために必要な環境は何ですか？**

お客様環境に Arcserve UDP 10.2 以降の Arcserve UDP コンソールと、復旧ポイントサーバ（以下、RPS と略記）が必要です。クラウド CRS / ACS は RPS のデータストア デスティネーションとして利用されます。

Arcserve UDP コンソールや RPS からはインターネット接続が必要です。なお、Web プロキシを使用したインターネット接続を行う場合は、Arcserve UDP 10.3 以降をご利用ください。

[Top へ戻る](#)**Q7. クラウド CRS / ACS のデータセンターはどこにありますか？**

日本国内にあります。2025 年 12 月現在、東京リージョンのみを利用できます。

[Top へ戻る](#)

2 機能/利用方法

Q8. RPS が全損しても、クラウドに残っているデータのみで RPS データストアを再構築できますか？

はい、RPS が全損したとしても、クラウド CRS / ACS 上のデータさえあれば、RPS データストアをインポートして再構築できます。

ただし、データストア フォルダ フォルダやインデックス デスティネーションについては、15 分間隔およびスナップショット取得時に RPS からクラウド CRS / ACS に同期されているため、インポートされるデータストアは最長で 15 分前の状態になる可能性があります。

[Top へ戻る](#)**Q9. クラウド CRS / ACS を使ったデータストアに、Arcserve UDP で継続的な増分バックアップが行えますか？**

はい、継続的な増分バックアップが行えます。定期的なフルバックアップは不要です。

[Top へ戻る](#)

Q10. クラウド CRS / ACS は 1 次バックアップ先として利用できますか？

はい、可能です。ただし、クラウド CRS / ACS へはインターネット接続になるので、リストアにはその分時間がかかります。そのため、本番システムの手元にもバックアップデータを保管し、クラウド CRS / ACS は 2 次バックアップ先とすることをお勧めします。

[Top へ戻る](#)

Q11. クラウド CRS / ACS は 2 次バックアップや 3 次バックアップ先として利用できますか？

はい、可能です。クラウド CRS / ACS は RPS のレプリケート先としても利用できます。

なお、1 台の RPS に重複排除が有効なデータストアを 2 つ（例えばオンプレミスのデータストアと、クラウド CRS データストアなど）接続して使用する場合は、2 つのデータストア分のリソースが RPS に必要になります。詳しくは、

[Arcserve CRS シリーズ 紹介資料](#)をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

Q12. Arcserve UDP Appliance と併用できますか？

はい、Arcserve UDP Appliance の内部データストアを 1 次バックアップ先、クラウド CRS / ACS をデスティネーションとするデータストアを 2 次バックアップ先（レプリケート先）として利用できます。

[Top へ戻る](#)

Q13. バックアップやリストアの速度はどのくらいですか？

お客様環境のインターネット回線速度および、RPS - クラウド CRS / ACS 間の距離に依存します。[Arcserve CRS シリーズ 紹介資料](#)にベンチマークテスト結果を掲載しておりますので、参考にしてください。また、トライアルにて、特にリストア時間が復旧目標時間（RTO）を満たすか確認することをお勧めします。

参考：[クラウド CRS トライアル申込ページ](#)：

参考：[ACS トライアル申込ページ](#)

[Top へ戻る](#)

Q14. Arcserve UDP の圧縮や暗号化、重複排除機能は利用できますか？

はい、利用できます。重複排除については必須となります。重複排除のブロックサイズは 64 KB で固定です。

[Top へ戻る](#)

Q15. クラウド CRS / ACS から、バックアップ対象ノードのベアメタル復旧はできますか？

はい、可能です。ベアメタル復旧ウィザード内で、RPS および RPS に接続されているクラウド CRS / ACS ベースのデータストアを参照します。

ただし、RPS 自体が破損した場合は、RPS の再構築かシステム復旧が必要になります。RPS 自身のベアメタル復旧は重複排除が有効なデータストアからは行えないため、RPS 自身のバックアップはクラウド CRS / ACS 以外の場所に保存してください。

[Top へ戻る](#)



Q16. Arcserve UDP がバックアップやマージを行っているタイミングでスナップショットを取得できますか？

はい、できます。クラウド CRS は、Arcserve UDP によるストレージへの書き込みを一時停止し、静止点を確保した状態でイミュータブル スナップショットを取得します。これにより Arcserve UDP のジョブへの影響を最小限にしながら、スナップショットの整合性が保たれます。

ただし、ランサムウェア攻撃発生時に復旧地点を明確にしたい、という観点では、バックアップ/レプリケート等のジョブが終わる後のタイミングを狙ってイミュータブル スナップショットの取得スケジュールを設定することをお勧めします。

[Top へ戻る](#)**Q17. Arcserve UDP Cloud Hybrid からクラウド CRS / ACS へのデータ移行はできますか？**

移行のための機能やサービスはありません。既存のプランを変更し、クラウド CRS / ACS を使ったデータストアに改めてバックアップ データを転送してください。なお、初回はフルバックアップ イメージでの転送になります。

[Top へ戻る](#)**Q18. クラウド CRS をデスティネーションとするデータストアで、スナップショットから過去の状態に復元した場合、既存の最新のバックアップ データは無くなりますか？**

いいえ、最新のバックアップ データは無くなりません。イミュータブル スナップショットは元のデータストアとは別な読み取り専用データストアとしてインポートされます。そのため、既存のデータストアは並行して利用できます。

[Top へ戻る](#)**Q19. 攻撃者が Arcserve UDP コンソールの管理アカウントを乗っ取り、イミュータブル スナップショットの保存期間を"1"など小さい数に減らしてしまった場合は、既存のスナップショットは削除されてしまいますか？**

いいえ、イミュータブル スナップショットの保存期間を変更しても、今後取得されるスナップショットの保存期間が変更されるだけで、既存のスナップショットは削除されません。

クラウド CRS のスナップショットは、取得時に設定されている保存期間に従って保存/破棄されます。

[Top へ戻る](#)**Q20. 初回のフルバックアップ時間を短縮するための、バックアップ データ運搬オプションはありますか？**

いいえ、ありません。初回フルバックアップによる長期間のネットワークへの負荷が懸念される場合は、Arcserve UDP の帯域制御機能の利用をご検討ください。

[Top へ戻る](#)

3 購入方法

Q21. 契約容量を超過してバックアップを行うと何が起きますか？

クラウド CRS / ACS を使ったデータストアに対して、バックアップやレプリケートなどによる復旧ポイントの追加ができなくなります。またイミュータブル スナップショットの取得や、新しいデータストアの追加もできなくなります。最新のデータを保護することができなくなるため、容量が不足する前にサブスクリプションの追加をご検討ください。

[Top へ戻る](#)

Q22. 後から容量の追加は可能ですか？

はい、リソースの追加は可能です。追加分のサブスクリプションを購入する際に、追加先のサブスクリプション契約のオーダー ID を登録用紙に記載の上、販売店への発注をお願いします。

[Top へ戻る](#)

Q23. 容量追加の際に、サブスクリプションの終了日を元契約と揃えることはできますか？

はい、可能です。契約更改がシンプルになるので、終了日を揃えることをお勧めしています。個別での対応になるので、販売店経由で購入前にご相談ください。

[Top へ戻る](#)

Q24. サブスクリプションはいつまでに更新すればよいですか？

サービスの継続利用を希望される場合は継続のご注文をお願いします。サブスクリプション終了日の 5 営業日前までに Arcserve へ継続の注文が届くように手配ください。目安として 2 週間前までに販売店へのご発注をお願いします。

[Top へ戻る](#)

Q25. サブスクリプションを更新しないまま期限が終了すると何が起きますか？

サブスクリプションが終了した翌日から、バックアップやイミュータブル スナップショットの作成など、データの更新を伴う処理が行えなくなります。サブスクリプション終了日の 60 日以降には、バックアップ データが削除されます。

[Top へ戻る](#)

Q26. サブスクリプション期限が切れるまでに、Arcserve から通知はありますか？

はい、サブスクリプション期限の 3 ヶ月前に電子メールでお知らせします。通知先のメールアドレスはサブスクリプションの購入時に登録いただいたエンドユーザー様のメールアドレスです。担当変更などでメールアドレスが変わる場合は、[Web フォーム](#)にて登録情報を変更してください。

また、Arcserve UDP 10.3 以降をご利用の環境であれば、サブスクリプション契約終了日の 60 日前より、Arcserve UDP コンソールに警告のダイアログ メッセージが表示されます。

[Top へ戻る](#)

Q27. サブスクリプションの複数年契約は可能ですか？

販売店経由でご相談ください。

[Top へ戻る](#)



Q28. クラウド CRS / ACS からデータをダウンロードする際に、データ転送費用は必要ですか？

必要ありません。クラウド CRS および ACS ではデータの転送量に対して課金することはありません。

[Top へ戻る](#)

Q29. トライアルで利用した環境を、本番環境として継続利用できますか？

はい、可能です。ただし、トライアル終了前に Arcserve にご注文いただく必要があります。トライアル アカウントが失効した後では、継続利用はできません。

また、トライアル時に作成した Arcserve Cloud Storage ポータル用のアカウント (Email アドレス) を、本番環境でもそのまま利用することになります。サブスクリプション購入時に提出する [Registration form](#) のお客様 Email アドレス欄に、トライアルで使用した Email アドレスを記入してください。Email アドレスの変更はできません。

[Top へ戻る](#)

